

大学院の概要

1 大学院の基本「芸術工学」

神戸芸術工科大学の建学理念にもとづく大学院芸術工学研究科は、修士課程・総合アート&デザイン専攻と博士後期課程・芸術工学専攻から構成され、「芸術工学」に基礎をおく実践的教育・研究活動を行っています。

芸術工学とは、「科学と技術」「人間と歴史」「芸術と文化」が融合する研究分野であり、分野をつなぐ研究によって新たな価値を生み出す力を持っています。大学院では、社会につながる創造性を探究していきます。

<建学の理念・大学の基本理念、使命・目的>

学校法人谷岡学園の建学の理念

設置母体の学校法人谷岡学園は「世に役立つ人物の養成」を建学の理念とし、それを (1)思いやりと礼節 (2)基礎的実学 (3)柔軟な思考力 (4)楽しい生き方、と解釈しています。

(1)「思いやりと礼節」…まず、人間として立派であること

世の役に立つためには、単なる技能や実力の前に、まず人間として立派であることが前提です。思いやりや倫理観、そしてそれらを具現化する礼節に欠ける者が、専門的知識を振りかざすことは、その者にとっても、社会にとっても危険なことといわねばなりません。「躰」を行うことは、家庭の責任が第一義としても、学校もその役割を分担する必要があると考えます。

(2)「基礎的実学」…世に出て必要な知識・技能・資格

教育と言うものは学問が不可欠の要素です。谷岡学園では特に社会に出て社会の役に立てる知識・技能・資格の取得を目指します。

(3)「柔軟な思考力」…広い視野・適応力・そして創造性

世の中には解答のない問題があふれています。せっかく知識や資格があっても、それを活用しさらに新しいものを創り出す能力がなければ、世の役に立てることはできません。それには時間的、空間的、思想的に広い視野と、イザというときに力を発揮できる既存の常識にとらわれない頭の柔軟さが必要です。

(4)「楽しい生き方」…プラス思考、そして生活の充実

およそ人間はこの世に生を受けた以上、すべて幸せになってほしいものです。目的意識を持って楽しい人生を送り、同時に他人をも楽しくさせることのできるプラス思考の人間形成を目指します。

神戸芸術工科大学の基本理念

科学技術と芸術文化の融合をテーマに、人間の営みの歴史を基調にした、人文・社会・自然にまたがる諸科学を学び、豊かな教養に裏づけられた芸術的感性と表現技術を磨き、人類の生活文化を豊かにする「デザイナー、アーティスト、クリエイターの養成」を基本理念としています。

神戸芸術工科大学大学院の教育目的

現代の状況に即応するデザイン理論の深化により「芸術工学」の学問的確立を図り、その専門的研究を通し、多様化したデザイン・アート環境に対応するため、高度な専門的知識、能力、技術を備え総合的視野をもつ研究者ないしは指導的実務者の養成を教育目的としています。

2 大学院が求める人材（アドミッションポリシー）

現代の多様化した環境とシステムに対応できる知識・能力・技術を備えた実践的な戦略を立てられる総合的なデザイナー・アーティスト並びにデザインやアートの専門的研究と理論の深化を通して創造性豊かな研究者の養成をめざしています。大学院修士課程および博士後期課程では、次のような目的をもって意欲的に取り組む人を求めています。

芸術工学専攻（博士後期課程）

- ・「芸術工学」を基盤にして知識基盤社会を多様に支える人
- ・デザインやアートの学術活動を通して、創造性豊かな研究開発に意欲のある人
- ・確かな教育力および研究能力を兼ね備えた指導者を目指す人

総合アート&デザイン専攻（修士課程）

- ・デザインやアートの制作活動や学術活動を通して、創造性豊かな感性を備える人
- ・現代の多様化した環境とシステムに対応するための高度な専門知識・能力・技術に高い関心を持ち、それらを身につけたいと求めている人
- ・高度なアートの専門知識および卓越した表現能力・技術を備えた総合的なアーティストを目指す人

3 大学院の構成

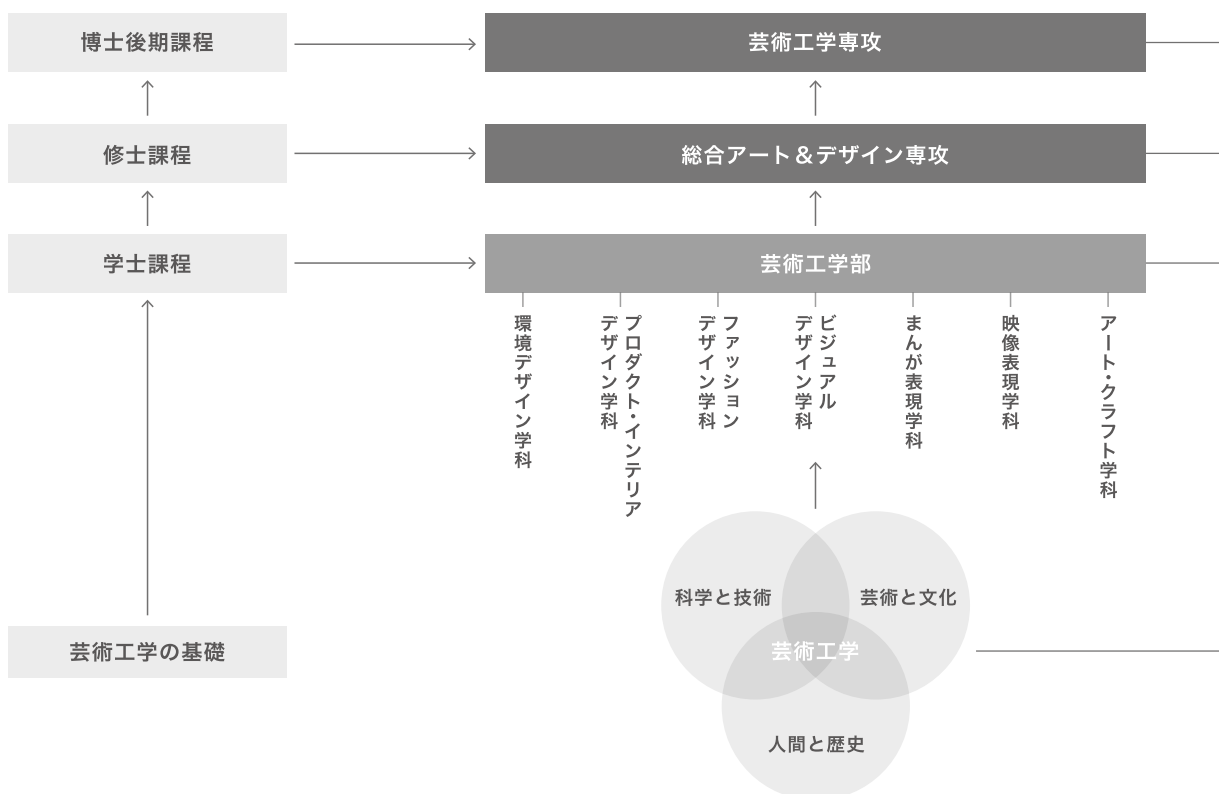
大学院芸術工学研究科は、修士課程（総合アート&デザイン専攻）と博士後期課程（芸術工学専攻）から構成され、学部で養った専門性を高めつつ、分野をつなぐことから生まれる創造性を広げます。多様化する地域環境や情報および社会の課題領域に対して、デザインとアートのもつ構想力・コミュニケーション力・創造性にもとづく新たな取り組みの可能性を示すことにより社会に貢献する実践的教育と研究活動を行います。

芸術工学専攻（博士後期課程）

芸術工学は、幅広い学びと分野をつなぐ研究によって新たな価値を生み出す力があると社会から期待されています。博士後期課程では、これまで修得してきたアートやデザインの専門性を深めるとともに、新たな価値やものの見方を生み出すような斬新な研究テーマを見出し、研究・開発に取り組むことにより、個性豊かな研究者を養成します。それはまた、魅力的で行動力のある教育者の育成にもつながる取り組みです。海外からの留学生も多く、国際的に活躍しています。

総合アート&デザイン専攻（修士課程）

「科学と技術」「人間と歴史」「芸術と文化」が融合する「芸術工学」に基礎をおき、社会とつながる実践的教育と研究活動をとおして、デザインとアートにおける構想力・コミュニケーション力・創造性を高めることをめざしています。芸術工学の先端の知を学び、創造的实践を経験するなかで、自ら考え問いをたて、新しい表現やデザインの可能性を見つける力を養い、そこから多様な個性と国際性豊かな創造活動を通じて社会に貢献する人材を育てます。



4 カリキュラムの特色（カリキュラムポリシー）

『芸術工学』の基盤となる深い専門知識と豊かな芸術的感性を持つ総合的なデザイナーやアーティストの育成、さらには高度な研究開発能力を持つ研究者や、確かな教育能力を兼ね備えた教育者の養成を目指します。時代や社会が求める多様な「科学と技術」の活用を、人間の立場から総合的に「発想」し、「構成」「計画」し、「表現」「造形」するカリキュラムを編成し、「芸術と文化」「人間と歴史」「科学と技術」の諸科学と合わせて総合的に研究指導を行います。

芸術工学専攻（博士後期課程）

個々の研究課題を調査・研究および創造実践を重ねるなかで、自らの課題の認識を深め、いくつかの分析手法を試行し、そこから見出した知見を展開する力を養っていきます。必要な知識については、修士課程カリキュラムから修得します。また、総合アート&デザイン専攻を修了していない者は、総合的な「芸術工学特論 A・B」を修得します。また、芸術工学研究所と連携するプロジェクト科目が研究活動を支援します。特別研究では、創造的で独自性のある研究を求めます。

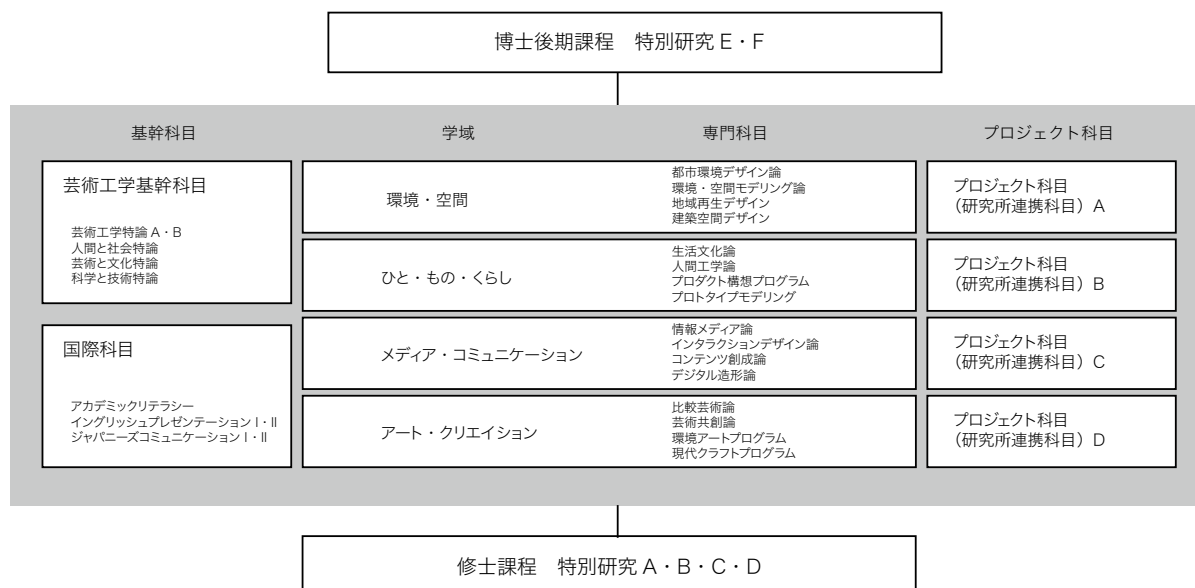
総合アート&デザイン専攻（修士課程）

基幹科目では、総合的な「芸術工学特論 A・B」と分野別の「科学と技術特論」「人間と社会特論」「芸術と文化特論」により、科学とデザイン・アートが融合する「芸術工学」の中心的な考え方を学びます。国際科目では、アカデミックリテラシーの基礎と、国際的なコミュニケーションでのアカデミックプレゼンテーションを学びます。また、専門科目では、各学域に対応する専門的な知識を修得します。

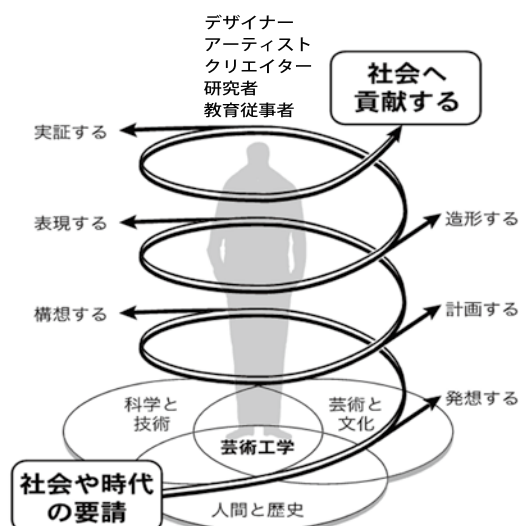
さらに、社会的課題や国際的活動を対象として芸術工学研究所との連携によるプロジェクト科目により、知的素養、デザインとアートの専門性、そして分野を超えた構想力・実践力を高めます。

修士課程における研究・制作の成果は特別研究として論文または作品としてまとめます。

また、1年短縮修了を可能とするカリキュラム構成となっています。（修業年限1年短縮には必要な条件がありますので、大学院事務室にお問い合わせください。）



大学院のカリキュラムは、社会や時代の要請に応え、総合的に「発想」し、「構想」「計画」し、「表現」「造形」とともに、そうした成果を「実証」することにより社会に貢献するアカデミックアクティビティを編成するものとなっています。



5 大学院の学位授与の方針（ディプロマポリシー）

芸術工学研究科において定める期間を在学して所定の単位を修得し、かつ研究指導を受け、修士論文または博士論文の審査及び最終試験に合格し、次の能力を修得した者に修士または博士の学位を授与します。

芸術工学専攻（博士後期課程）

1. 専門とする領域において、高度な知識・能力と技能を身につけている。
2. デザイン・アートの専門分野を積極的に横断し、総合的な研究開発を遂行する能力を身につけている。
3. 高い倫理性と責任感を持ち、研究、指導する能力があり、その成果を広く社会に向けて発信することができる。

総合アート&デザイン専攻（修士課程）

1. 専門とする領域において、十分な知識と技能を身につけている。
2. デザイン・アートの専門分野を横断し、総合的実践的な構想・戦略、計画・立案できる能力、表現能力・技術を身につけている。
3. 社会的課題に応えることができる探求能力と表現能力を身につけ、広く社会に向けて発信することができる。